

# 平成 27 年度地域教育行政懇談会等の開催結果の概要について

1. 議題 「次期教育基本計画について」
2. 日程・出席者等

開催地域・日程	地域関係者(懇談会)		市町教育委員会出席者	
	氏名	役職	氏名	役職
三親地域 7月29日	高岡 哲子	柞田地区体育協会副会長 観音寺市立柞田小学校評議員	大西 孝典	観音寺市教育委員会 教育委員長
	清水 良徳	観音寺市大野原中央公民館長	大久保 健二	観音寺市教育委員会 教育委員
	河田 圭一郎	観音寺市PTA連絡協議会副会長 観音寺市立観音寺小学校PTA会長	齋藤 悦子	観音寺市教育委員会 教育委員
	今井 節子	観音寺市立豊田幼稚園評議員	行天 武夫	観音寺市教育委員会 教育委員
	樋笠 巡	三豊市スポーツ少年団本部長	大平 幸男	観音寺市教育委員会 教育委員
	馬場 章	三豊市青少年健全育成市民会議理事	大浦 茂	三豊市教育委員会 教育委員 (教育長職務代理者)
	西宇 弘一	三豊市PTA連絡協議会会長	豊田 博子	三豊市教育委員会 教育委員
	藤村 瑞穂	三豊市公民館主事	藤田 京子	三豊市教育委員会 教育委員
			岡根 淳二	三豊市教育委員会 教育委員
			小野 英樹	三豊市教育委員会 教育長 三豊市観音寺市立観音寺小学校組合教育委員会 教育委員 (教育長職務代理者)
			小山 利幸	三豊市観音寺市立観音寺小学校組合教育委員会 教育委員 (教育長職務代理者)
			藤田 善秋	三豊市観音寺市立観音寺小学校組合教育委員会 教育委員
			國土 セツ子	三豊市観音寺市立観音寺小学校組合教育委員会 教育委員
	仲善地域 7月24日	山下 美博	まんのう町社会教育委員長	杉本 孝作
地藤 照子		まんのう町青少年育成会議理事	角野 幸治	普通寺市教育委員会 教育委員
高井 忠		まんのう町スポーツ推進委員会委員長	福家 葉子	普通寺市教育委員会 教育委員
森下 直哉		琴平町立琴平小学校PTA会長	白川 昭子	普通寺市教育委員会 教育委員
越智 和子		琴平町立琴平小学校学校関係者評価委員	森 正司	普通寺市教育委員会 教育長
兼若 幸一		豊原地区青少年健全育成市民会議会長 多度津ジュニアクラブ代表世話人	竹井 誠	琴平町教育委員会 教育委員長
富田 哲弥		多度津町子ども育成連絡協議会会長	大西 文子	琴平町教育委員会 教育委員
齊藤 雅史		普通寺市PTA連合会会長	三井 尚	琴平町教育委員会 教育長
久利 和子		普通寺市中央地区主任児童委員	山本 恵美子	多度津町教育委員会 教育委員長
			田中 公敏	多度津町教育委員会 教育委員
			竹森 久喜	多度津町教育委員会 教育委員
			林野 美香	多度津町教育委員会 教育委員
			田尾 勝	多度津町教育委員会 教育長
			三原 一夫	まんのう町教育委員会 教育委員長
		齊藤 賢一	まんのう町教育委員会 教育長	
小豆地域 7月29日	橋本 明彦	元土庄町立土庄中学校長	山崎 勝美	土庄町教育委員会 教育委員
	大森 慎一	(社)ひまわり福祉会管理者	岡見 珠美	土庄町教育委員会 教育委員
	湊 満雄	土庄町社会教育委員	佐々木 育夫	土庄町教育委員会 教育委員
	松江 寿美雄	小豆島町PTA連絡協議会会長 池田小学校PTA会長	藤本 義則	土庄町教育委員会 教育長
	藤本 祥子	みんなで子どもを育てる県民運動推進員 西村公民館主事	熊坂 泰忠	小豆島町教育委員会 教育委員
	八木 久美子	みんなで子どもを育てる県民運動推進員 蒲生公民館主事	岡田 恕枝	小豆島町教育委員会 教育委員
			黒木 治夫	小豆島町教育委員会 教育委員
			岡本 芳郎	小豆島町教育委員会 教育委員
		後藤 巧	小豆島町教育委員会 教育長	
東讃地域 7月30日	山本 千景	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員会委員長	細川 哲士	さぬき市教育委員会 教育委員長
	鶴身 正	さぬき市子ども会育成連絡協議会会長	徳田 二三男	さぬき市教育委員会 教育委員
	千田 香代子	さぬき市青少年育成センター指導員	日向 和加子	さぬき市教育委員会 教育委員
	玉井 久美子	東かがわ市立三本松小学校PTA会長	得丸 慶子	さぬき市教育委員会 教育委員
	田中 茂	東かがわ市スポーツ推進委員会委員長	岡 裕子	さぬき市教育委員会 教育委員
	中山 康弘	東かがわ市スポーツ推進委員会副委員長	安藤 正倫	さぬき市教育委員会 教育長
	清原 栄子	東かがわ市スポーツ推進委員会副委員長	山本 勝博	東かがわ市教育委員会 教育委員
	三好 康彦	東かがわ市スポーツ推進委員会副委員長	吉田 りえ子	東かがわ市教育委員会 教育委員
		竹田 具治	東かがわ市教育委員会 教育長	
丸亀・坂城地域 7月31日	明石 正子	坂出市婦人団体体育連絡協議会会長	詫間 健太郎	丸亀市教育委員会 教育委員長
	長尾 猛	坂出市子ども会育成連絡協議会会長	山本 憲治	丸亀市教育委員会 教育委員
	福家 芳弘	坂出市PTA連絡協議会会長	岩田 理香	丸亀市教育委員会 教育委員
	村山 祐介	綾川町PTA連絡協議会会長	金丸 眞明	丸亀市教育委員会 教育委員
	宮崎 裕兄	宇多津町立宇多津中学校PTA会長	中野 レイ子	丸亀市教育委員会 教育長
	津谷 弘樹	綾歌郡PTA連絡協議会会長	齊藤 恵子	坂出市教育委員会 教育委員
	直井 茂貴	丸亀市PTA連絡協議会会長	中横 孝彦	坂出市教育委員会 教育委員
	草壁 信男	丸亀地区保護司会会長	國重 英二	坂出市教育委員会 教育長
			前田 寛文	宇多津町教育委員会 教育委員長
			木村 麗子	宇多津町教育委員会 教育委員
			合田 幸生	宇多津町教育委員会 教育長
			松井 輝香	綾川町教育委員会 教育委員長
			川田 喜義	綾川町教育委員会 教育委員
			濱崎 泰子	綾川町教育委員会 教育委員
		杉村 和則	綾川町教育委員会 教育長	
高松地域 8月11日	清瀬 正臣	高松市立花園小学校学校評議員	松井 等	高松市教育委員会 教育長
	雪森 百合子	高松市立幼稚園PTA連絡協議会会長	阿野 秋子	三木町教育委員会 教育委員長
	横井 裕二	高松市PTA連絡協議会会長	多田 葉子	三木町教育委員会 教育委員
	関元 盛夫	高松市子ども会育成連絡協議会会長	市川 隆義	三木町教育委員会 教育長
	大西 輝清	高松市青少年健全育成市民会議会長	松下 啓一	直島町教育委員会 教育委員
	森 綾子	高松市スポーツ推進委員連絡協議会会長	原 貴	直島町教育委員会 教育長
	宮内 直子	三木町PTA協議会会長		
	佐藤 重雄	三木町スポーツ推進委員会委員		
	本田 智広	直島町立直島小学校PTA会長		
	石川 昭子	直島町婦人会会長		

### 3. 議題に関する意見の概要

#### 確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

##### <学力の育成>

- 自分たちの時代に比べて小学校高学年の授業は詰め込みでスピードが速い。土曜日がなくなった分、宿題が多く、スポーツ少年団や習い事もあり、ゆとりがない。土曜授業を再開してもらいたい。
- 週休2日制を元に戻すことは難しいと思うが、夏休みは短縮できるのではないか。学校にもクーラーが備わっているのだから。
- 土・日は先生にリフレッシュしてもらいたい。子どもはスポーツ少年団など学校外で過ごせばよいと思う。
- 小学校高学年になると、親が教えてやることも難しくなる。させられるのではなく自分で勉強する方法を教えてもらいたい。
- 各学校では、自学自習の課題が多い。小学生には自学自習の課題は難しい。もっと具体的に課題を出すべきだ。そうしないと、中学生になったときに、授業が分からない子が多くなってしまわないだろうか。

##### <キャリア教育>

- 勤労観や職業観について、小学校では職場体験をしている。社会に出ると仕事をしなければいけないので、仕事をする実感（労働安全衛生法等）の勉強も必要である。学校では夢も現実も見せるべきだ。

##### <外国語教育、国際理解教育>

- 小学校の総合学習の時間が、英語を教科化することによって削られているように思う。そもそも、英語を小学校から学ぶ必要はあるのか。情緒を育てることを優先すべきではないか。
- 5年後に高校では英語の授業が英語だけを使って行われるようになる。今の小学生の保護者に周知し、早く対策を講じなければいけない。
- 地域にも外国人が増えている。地域の一員として一緒に生きるという視点で、学校や教育の側からのアプローチがほしい。

##### <情報教育>

- 授業中に生徒のスマートフォンを預かっている学校もある。LINE やメールをストップできる方法はないのか。何か意見があれば教えてほしい。
- スマホ・携帯電話について
  - ・持っていないと情報共有で遅れが出て、仕方なく持つようになった。
  - ・中学生のうちには持たさないようにしようと、中学校の入学説明会で保護者への指導があった。自分で責任を持てないうちは持つべきではないと思っている。
  - ・高校に入ると友達との連絡のため持たざるを得ない状況になっている。
- スマホについて一番の問題は保護者である。県の「さぬきっ子の約束」とかインターネットの安全・安心の話年1回くらい保護者や子どもに聞かせたい。
- インターネットは便利なツールでもあるので、賢い利用方法を教えてほしい。

##### <幼児期の教育>

- 公立の幼稚園、子ども園の園児数が減ってきて、保育所に預ける方が増えている。公立と私立の幼稚園

を比べると、公立の方はPTA等の行事が煩わしく、私立は送迎までしてもらえる。保護者が楽な方に流れていると感じる。保育所に預けると保育時間が長いので、親子のふれ合いの時間は減って、どうなるのかという心配はある。

- 幼稚園・保育所と一緒に親が子育てに取り組んでいくことが大事だと感じている。それにより保護者も理解ができて、子どもの育て方が分かっていくのではないか。

#### <特別支援教育>

- 高松養護学校や中部養護学校に小豆郡内の子どもたちも在学しているが、保護者の労力や経済的な負担は大きい。ぜひ郡内に特別支援学校を設置してほしい。
- 小豆郡への特別支援学校の設置には、保護者から強い要望があるので、ぜひ前向きに検討してほしい。
- 特別支援学級にも重度の障害を持つ児童生徒がいるのが小豆地域の特徴である。県から市町に特別支援の専門教員を派遣してもらえるような制度を検討願いたい。

#### **豊かな人間性を はぐくむ教育の推進**

- 心の豊かさや優しさ、思いやりが盛んに言われるが、心のたくましさや心の体力が足りないと感じる。我慢や勇気、心をコントロールすることも大切である。
- 子どもの自尊心が低いと言われるが、親のしつけが厳しかったり、嫌なことを強制されたりするとそうなるようだ。学校や地域で、自発的に好きなことをする機会がもっとあればよいと思う。
- 教育の最終目標は、家にひきこもらずに社会で働き貢献する人を育てることだと思う。
- 子どもが自分の意見を言えるようになるべきである。子どもが自分で大切なものを見つけられるようにすべきである。子どもにいろんな習い事をさせなくても、個性あふれる学校の先生をもっと使えばよい。
- 教育格差が問題になっているが、格差はあって当然であると子どもたちに教える必要がある。子どもたちが自立した生活を送れるようにすべきだ。今の教育では平等を教えすぎている。
- マナーはしっかり身に付ける必要がある。学校はしっかりやっているが、知識を深められる場があればよい。
- 授業中に子どもが教室から出ていても、他の子どもの邪魔をしないからと先生が放っておくところを見たが、その考え方はどうかと思う。落ちこぼれの子を復帰させるのは先生の仕事だと思う。先生方もその子を教室に入れる努力が必要ではないか。
- 子どもたちには自尊感情と規範意識が大事である。「あなたは学校や地域にとって大事な子どもである」ということをもっとアピールすべき。
- いじめは大問題と思っている。携帯を持たないことで子どもがいじめられることもある。
- 道徳の教科化はいつから始まるのか。しっかりと取り組んでもらいたい。

#### **すこやかな体を はぐくむ教育の推進**

##### <体力づくり>

- 本県では高校生から体力が伸びるという話だが、高校では専門性を持つ指導者がしっかりと部活動を指導していることが影響していると思う。中学校の部活動では、専門の指導者が顧問をすることが少ない。
- 紫外線や微粒子など環境の問題や安全・安心の面で、子どもの外遊びが制限されていることも体力低下の原因ではないか。親は心配で子どもを外に出せない。
- 学校の統合によって、スクールバス通学の小学生が多くなり、体力の低下が心配だ。
- 昔は、体力は学校でなく遊びの中で身に付けたが、今は遊ぶ場がない。

○ボール投げが出来ない子どもが多い。子どもが小さい時からやらないとできない。

#### <食育>

○食育に重点をおきたい。家族を大事にするためにも、職場が親を決まった時間に家庭に帰す努力をすることが大事である。食事をきちんと作り、美味しい食事をにっこりと笑顔で食べることがスタートだと思ふ。

### **元気で安心できる学校づくり**

#### <優れた教員の確保と資質能力の向上>

- 優秀な人材の確保について、2～3年は講師をさせて、その間に資質を見極めるべきではないか。
- 教員の年齢構成を見ると、今後10年間で半数が入れ替わることになる。大量採用による教員の資質低下も心配だし、教員志望者の減少も気になる。教職の魅力ややりがいを向上させる方策を考えてもらいたい。
- 子ども会等の地域活動に参加する教員が挨拶をしない。教員には社会性が欠けている。これでは、子どもに教える術がない。子どももさることながら、教員を育ててほしい。

#### <教員が子どもと向き合う環境づくり>

- 保護者として思うのは、先生方が資料作成などで本当に大変であるということと、その中で、どれくらい子どもに目を向けてもらえているか、ということである。
- 先生が楽しいと感じる職場でないと、生徒にとっても楽しい学校にはならない。先生の数が足りないのではないか。
- どんな仕事にも負担感や雑用はつきものなので、業務への負担感が高いのは、仕事に対するモチベーションの低い先生が多いということかなと思う。一方で、効果のない研修や調査が多いという話も聞くので、県教委や市町が努力して減らすべきだ。
- 人を増やさずに午後6時には帰宅できるような体制をつくれぬものか。「退庁しなさい」と指示すれば済むのではないか。民間なら社長が一言いえばすぐにはできる。

#### <学校安全>

○若い子に危険なことをさせなくなり、危険予知能力が希薄になったのではないか。教育でそういった取り組みはあるか。

#### <就学支援の充実>

○貧困の問題は昔からあった。それでも昔の人たちは子育てをしてきた。貧困問題を時代のせいにするのは間違いである。

### **社会全体で子どもを育て、いつでも学べる環境づくり**

#### <家庭教育>

- あいさつは家で起きたときの「おはよう」から始まる。教育の原点は家庭にある。
- 躰は学校でやるのは無理で、学校前の準備段階で、家庭の中でやることである。
- 学校ばかりに責任を押し付けてはいけない。(教育の)根幹は家庭である。子どもたちは、厳しい父親と優しい母親、おせっかいな近所に囲まれて育つのが理想である。親としての研修を効果的に行うことが一番必要だと感じる。
- 家庭の教育力が低下している。保護者への啓発もよいが、啓発(で効果があがる)レベルではなく、「応

援」が必要だと思う。

- パンフレットやリーフレットをたくさん作成・配布しているが、1年後にどう成果が出ているか、保護者がどこまで理解しているか、検証する必要がある。
- (家庭教育等に関する)研修会を開いても、本当に来てほしい保護者は参加してくれない。良い方法はないものか。
- PTA活動には仕事の関係で行けない保護者もいる。保護者は一生懸命頑張っているが、保護者だけの頑張りでは立ち行かない時代になった。すべての子どもを対象に社会づくり、学校づくり、セーフティネットづくりを進めてほしい。

#### <地域教育>

- 地域活動や子育て支援活動の団体は本当に熱心だが、それぞれがバラバラに活動しているため浸透しない。子どもを中心に据えて、みんながつながれば良いのにと感じている。
- 地域コミュニティで活躍している者は限られ、高齢化している。若い人に関わってほしいが、声をかけても協力してもらえない。
- 同じ人が(複数の団体の)リーダーを掛け持ちしているので調整が難しい。地域のリーダーを育てることが大切だと思う。
- 子ども会を大きな組織でやるのはどうか。(現在の組織単位よりも大きく。例えば、市町単位で編成するなど。)
- 今は社会教育の中で選択肢が多いので、子ども会活動への執着はない。むしろ、公民館で大人と子どもが交流するのが良いのではないかと思う。親以外の大人から教わることが大きな力になる。
- かつては校区と自治会の単位、地域がイコールだったのに、小学校の統合により、地域活動の停滞に拍車がかかっている。学校教育の側から、地域を支える視点での提案、連携の取組みをお願いしたい。
- スポーツ少年団は余暇を活用して行う地域活動であると認識しているが、最近はクラブチーム化し、地域や学校を無視(自分たちの都合を最優先)する傾向がある。スポーツ少年団と学校や地域との接点を大切にする必要がある。

#### <読書活動>

- 本の読み聞かせには子どもを落ち着かせる効果があり、読み手から大切に思われているという心が伝わることで自尊感情が育つ。
- 読書は、集中力や国語の知識などにも役立つので、学校でもしているが、県全体でも取組をお願いしたい。
- 子どもの読書については、中高では勉強や部活動で時間を取るのが難しいように思う。読書の機会を増やしていければよい。

#### <生涯学習>

- 公民館に携わって思うのは、70歳前後の方の向学心やスポーツへの関心が非常に高い。

### **多様なスポーツ 活動が実践できる環境づくり**

#### <生涯スポーツ>

- スポーツが楽しいという経験を幼稚園、小学校でしていないと、大人になってからは難しい。小学校の時にみんなでスポーツをする時間を、短い時間でも継続的に持てたらよいと思う。
- 最近の子どもは、専門的でなく、いろいろなスポーツを楽しみたいという考えで、昔とは考え方が変わ

っている。

#### <競技スポーツ>

- 競技力を強くすることはすぐにできるが、長く続けることは難しい。そのためには小中高の一貫指導（体制の構築）等が大切になる。
- 本県は高校野球も弱いし、駅伝も最下位クラスに低迷している。今の計画で5年間、育成・強化を図ってきたはずなのに、効果がなかったということなのか。
- （指標について）オリンピックとかアジア大会ではなく、もっと身近できちんと効果を測れる目標があればよいと思う。
- 県内にはアスリートを受け入れる企業がないため、せっかく育てても本県に帰ってこられない。アスリートがUターンできるような施策を考えてもらいたい。
- スポーツについて、全体的な順位は下がっているかもしれないが、アイスホッケーやハンドボールなど好成績を収めている競技もあるので、活躍したものはぜひ取り上げてほしい。
- 最近の子どもは、小さい時から特定のスポーツ競技しかやらない。県の「スーパー讃岐っ子育成事業」は、複数の競技に取り組みせ、自分に合った競技を選べるところがとても良いと思う。